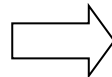


生ごみ・堆肥を活用した農業関係者との連携について

1 ごみ組成調査結果

- 1) 厨芥類(生ごみ等) 約 50%
- 2) 古紙類 約 35%
- 3) プラスチック製容器包装 約 7%



資源化可能 約 71%

○ 生ごみ削減に向けた取組みの計画

- ・バイオ式生ごみ処理容器購入に対する助成制度
- ・微生物やミミズ等を活用した堆肥化方法を紹介・選択肢の増
- ・くるっとによる「ぎゅっとひとしぼり運動」活動

2 前回までの審議会における主な意見

- ・農地や土地を保有する方は意識の持ち方次第で減量が可能となる。農家の方には率先してやってほしい。堆肥活用で野菜は良質なものができる。「絞り汁」を何倍かに薄めて苗木にまくと綺麗な花が咲く。こういったことをしっかりと情報発信するべきだ。
- ・生ごみは堆肥化しなくても、畑などで活用することができる。農家だけが可能であるという発想から一歩踏み出し、生ごみを持ち込む場所を共有化して、誰でも契約を結べば農地へ持ち込むことができるというようなシステムが考えられないか。
- ・堆肥づくりをしても活用する場所がなく困っているという話を聞くが、農地を活用することで、土が肥えていくことにより、収穫水準も向上する。市民も農業関係者も含めてメリットがあり、楽しみながらごみを減量化する、そして得をするというシステムが重要だ。

課 題

生ごみ・堆肥を活用した農業関係者との連携の可能性について

(素案)

- ① 近隣農地を活用(借用又は受入等)した生ごみ堆肥化の可能性
- ② 家庭で堆肥化を行い、近隣農地で活用していただくためのインフラ整備
- ③ JA 関連店(例えば花野果市)と連携した市民と農業関係者、行政との協働による循環型社会の実現